

香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑥

慢性痛とペインクリニック

「ペインクリニック」とは一体どんな治療法なのかを、梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生に解説していただくこのコラム。第6回のカルテは「腰痛（その5）腰部脊柱管狭窄症（ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう）」です。

腰部脊柱管狭窄症で、歩いて歩けなくなり、少々と立っているだけでは腰痛以外に間欠性跛し（はこう）という特るようになるもの。まれが出てくることもあ

神経根型は、神経ブロックなどの保存療法で改善

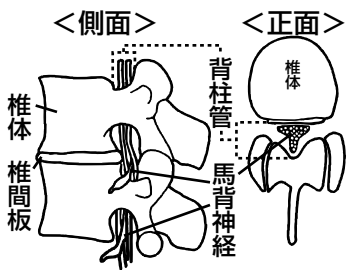
微的な症状が見られま
す。間欠性跛行とは、
歩き始めは何ともない
のですが、しばらくす
ると腰から下肢にかけ
て痛みやしびれが起こ
る症状を伴う場合や、ず

ります。

このような症状は慢性的に圧迫されている神経がさらに圧迫されて起こり、歩く、腰を後ろにそらすといった動作で悪化します。逆に圧迫を弱めてやれば症状は軽減。手押し車を押して歩く、前かがみで歩行する、杖をつくとといったことで歩行距離を伸ばすことも可

能ですし、しばらく腰を前かがみにして休ませてやれば痛みやしびれが軽くなります。痛みは通常、お尻から太ももの後ろ側に走り、膝の後ろから外側にかけて響きます。足で起こります。冷え、寝不足、ストレスなどから太ももの後ろ側に走り、膝の後ろから外側は痛みとしびれを悪化させます。

の中を走っています。脊柱管が狭められた状態になり神経が圧迫されると症状が現れてくるのです。原因は老化による変性（変形性腰椎症）8月28日号、椎間板（ついかんばん）ヘルニア、脊髄（せきつい）すべり症や、それらの合併で起こります。冷え、寝不足、ストレスなどで起こります。冷え、寝不足、ストレスなどで起こります。冷え、寝不足、ストレスなどで起こります。



やぼうこう、肛門を支配する神経（馬尾神経）は腰の背骨の中の脊柱管（図）と呼ばれる管に圧迫され、両脚の広い範囲でのしびれや脱力感、残尿や頻尿、便秘などの排尿、排便障害が見られます。混合型は神経根型と馬毛型の両方の症状が出現するものをいいます。馬毛型と混合型は保存療法で改善されない場合、手術療法を考慮する必要があります。しかし手術をすれば、どのような症状でもつきりと解消されるというわけではありません。背骨から出る神経の根元が圧迫される神経根型は、脚への痛みやしびれが主で、安静、薬物療法、神経ブロック、理学療法（リハビリ）といった保存療法で改善が十分期待できません。中でも「硬膜外ブロック」や圧迫を受けている神経に直接針を当て、少量の局所麻酔薬と炎症を抑えるお薬を混ぜて注射する「神経根ブロック」が奏功します。

■プロフィール こうそかべ・よし のり 昭和54年3月 岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て今年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属



香曾我部義則先生

現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

次回は2回に分けて帯状疱疹（ほうしん）と帯状疱疹後神経痛について説明します。

■メモ 問い合わせ先 (293) 33355(代) 日本ペインクリニック 認定施設 梶木病院(西花尻1231-1)